

町田・相模原の経営をリードする町田・相模原経済同友会

# 武相エコノミスト

第12号

2019.8.1

BUSO ECONOMIST

twelveth issue

2019・夏 リーダー対談

町田市長

町田・デザイン専門学校

石坂 丈一 × 井上 博行

AREA TOPICS

JAXA相模原キャンパス

私の行きつけの店

BURGERSCAFE GRILLFUKUYOSHI 橋本店



# 町田市と相模原市 115万人のポテンシャルを生かして 未来につながる行動を

町田・デザイン専門学校  
理事長・校長

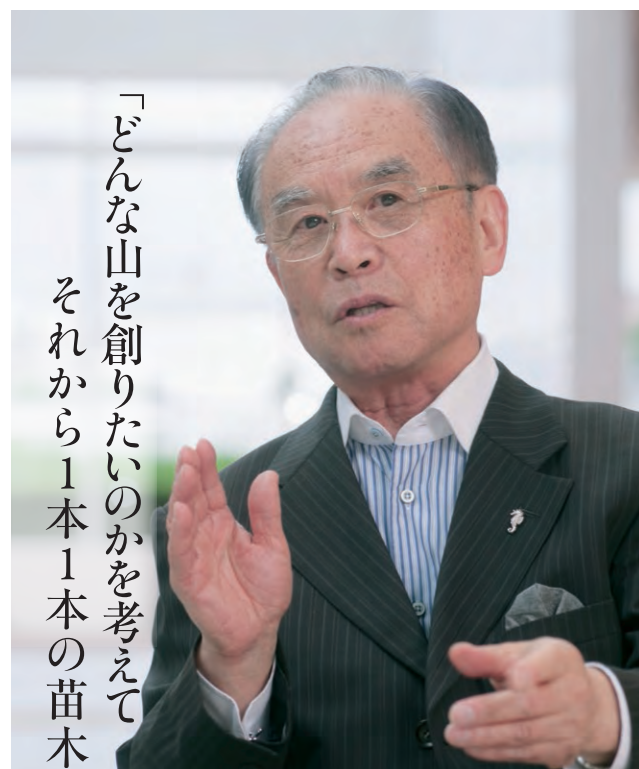
町田市市長

## 石坂 丈一 × 井上 博行

首都圏基本計画で「業務核都市」と位置付けられて久しい町田・相模原。

両市を合わせた人口は115万人にも達するが、広域連携の可能性はまだまだ発展途上と言える。

その未来に向けての改革の課題を、石坂市長、井上新代表幹事の2人が膝を詰めて語り合った。



井上 博行  
町田・デザイン専門学校 理事長・校長

1940年町田市木曽町生まれ  
昭和第一学園高等学校建築科卒業  
飛鳥建設株式会社を経て独立し、設計会社を設立  
78年多摩造形学園創立、82年「町田・デザイン専門学校」に改称  
町田市議会議員(3期)、山野草3,000株を育成している

**井上** 先ごろ6月の例会で町田・相模原経済同友会の代表幹事を引継ぎました。これまでの歴史を礎としながら、今新たに令和という時代を迎えてさらなるスタートの年としたいと思います。そこで改めて経済同友会の創始の精神にも立ち返りながら、本日は市長と膝を突き合わせてお話しできればと参りました。

**石坂** 町田・相模原経済同友会は、いわば広域連携都市の象徴とも言えますか、これからの時代の組織と言えますよね。今年で何年目になりますか。

**井上** 町田・相模原経済同友会は13年目になります。公益財団法人経済同友会は昭和21(1946)年に中堅企業人の有志83名で設立されたものです。特色は、企業経営者が個人として参画することで、企業や業界の垣根を超えて、幅広く、先見的な

視野をもつて政策提言を行うという趣旨があります。

経済同友会は東京都同友会も神奈川県同友会もありますが、その中にある、平成18年7月に、地域で活動する経済人9名が立ち上がり、「町田経済同友会」として設立しました。そして2年後の平成20年4月には相模原市と一緒にやろうということ、で「町田・相模原経済同友会」として連携をいたしました。

**石坂** 国では平成11年3月の第5次「首都圏基本計画」の策定における「業務核都市の整備」の中で、町田、相模原をその一つとして位置付けています。

**井上** そうですね。現在、町田、相模原両市の人口は合わせて約115万人に達します。これは規模で言えば石川県や大分県の人口と同等ですし、すごいポテンシャルを

かが多かつたりします。

相模原の持つっているポテンシャルをわれわれは活用していきたいし、町田が持つっている力も相模原で使ってもらえれば、Win-Winの関係をもっと作っていかないとけないと思っっています。それは東京都もやらないし、神奈川県もやりませんから。そのために、相模原と一緒にものを考える団体があるといい。そこは町田・相模原経済同友会さんにぜひ期待したいところです。

**井上** ありがとうございます。そこで私どもは民間団体として何ができるのか。それを考えたときに、市の施策についてもよく学ぶことが必要だと思っております。今度新しい産業振興計画を発表されたということですが、その概要についてお話ししたいでもよろしいでしょうか。

**石坂** 「町田市産業振興計画19-28」という10カ年計画を3月に発表しました。「チャレンジするなら、TOKYOの町田から!」という副題がついています。キーワードは「チャレンジ」で、要するに、もう右肩上がりに成長するような時代環境ではない。チャレンジがないと潰れてしまふよ、というのが考え方です。

では、何にチャレンジするかと言うと、1つ目は「立ち上げる」チャレンジ。起業・創業を頑張らしようということ。2つ目は「拡げる」チャレンジ。競争力を高め、事業を拡げていきたいと思います。3つ目は「つなぐ」チャレンジ。これは次世代に事業をつなぐ。事業承継をしっかりとやりましよう。そしてこれら3つのチャレンジを行政や各団体がサポートしよう、その土台となるビジネス環境づくりをしようという

持っています。ただ、「業務核都市」と言ってもなかなか具体案に乏しい現実があります。私どもは、いわば「越県大都市力」で生き残りを図らなければという危機感を感じ、融合して提起することになりました。広域連携都市として、今こそ相互補充しつつ一体となつて発展をさせていくべきと考えております。

**石坂** 歴史的に見れば、明治の前半までは、町田を含む多摩郡すべてが神奈川県だった時代もありますね。もともとの意識の中には、政治的にも経済的にも同一というところがあります。現在は行政区分として区切られていても、そもそもの文化圏としては一緒ではないですか。線を引くことと自体おかしいと思うもあります。

**井上** 本当にその通りです。ただ一方で、商工会議所などを見れば町田市はどちらかといえば商業中心型の会員さんが中心です。相模原市では工業中心型の考え方となります。そこでやはり交流と相互理解をより深めて、一体化して提言をしていく必要があります。

**石坂** そこに経済同友会のいわば地域版として立ち上げられた、「町田・相模原経済同友会」の矜持とも言うべきものがあるわけですね。

**井上** 私どもの活動の基本方針というのが4つありまして、1つ目が「地域経済の旗手」として企業人の責務を全うすること。2つ目が積極的に「先見性のある提言」をし、市民生活の向上を図ること。3つ目



石坂 丈一  
町田市市長

1947年町田市野津田町生まれ  
横浜国立大学経済学部卒業  
1971年横浜市総務局に入局、04年横浜市港北区長就任、06年から町田市市長  
バードウォッチングや版画、料理が趣味

「経済活動そのものに線なんかない。  
両市で連携しつつ新しいチャレンジを」



こと。こうした4本柱で構成されています。  
**井上** 1つ目の起業・創業については、町田市は都内では立川市に次いで開業率が高いと聞いています。これはますます加速させていきたいですね。

**石阪** 町田市の開業率、新しく事業を起した人の率は6・4%なのですが、これを引き上げていくのが目標です。3つのチャレンジにはそれぞれ10年間で達成しようという数値化した目標があるのです。2つ目の「拡げる」では、現在、一つの会社の付加価値額が平均で約5000万円。付加価値というのは要するに会社の生産活動によって新たに生み出された価値のことですが、これをさらに上げましょう。3つ目の事業継承では、今ある町田の事業所数が約1万2000ですが、その数字を維持しましょうということになります。

そして、そのために市役所なり、商工会議所なり、経済同友会なりが何ができるでしょう、ということが4つ目のチャレンジになるわけです。

**井上** 創業支援機関としては、町田新産業創造センターがありますね。あちらはどうなんですか。

**石阪** あそこは新規性・独創性のある起業家に対する支援をメインとして、一方、企業内創業など中小企業の販路拡大等も対象としています。そうした企業が施設内に部屋を借りてやっているわけですが、もう満杯なんですよ。したがってさらにそのよ

うな場所が必要ということを、今回のプランにも掲げています。

**井上** 経営スキルや資金調達に関する相談もされているのですよね。やはり最初の立ち上げのところが大切ですからね。

**石阪** あとは民間ベースでもそういう事業、創業者が交流を図れる空間ができてくると思いますね。

**井上** 今町田市の開業で一番多いのは、業種でいうと何なんですか。

**石阪** 商業は当然多いのですが、あとは福



## 私の行きつけの店 Vol.9

My Favorite Place



## 宇宙へ飛び立った 話題のハンバーガー

**BURGERS CAFE GRILL FUKUYOSHI** 橋本店

× 医療法人直源会 相模原南病院 **石川 誠剛**

社・医療関係・教育・介護の仕事はシェアもどんどん上がっています。

**井上** 産業を新たに育成させながら、一方で生産労働人口も減っていきますし、やはり商業の活性化も考えていけないといけないでしょうね。

**石阪** あとは新産業というか、先端産業が大事だと思っています。いわゆるニーズにシーズがくついていくこと。シーズは、まだ世の中に出ていない新しい技術やサービス、ビジネスの種ですね。

町田の場合は大規模工場を造るなどという土地もないし、建物の中でできるということも大切。町田の10年後、20年後のためには、そういうICTとか先端技術を使ったサービス産業を育成するシステム、そういうものが必要となると思っています。それは街中がいいんですよ。

**井上** 確かに町田は地べたがありませんから、それは素晴らしい考えですね。

**石阪** ただ、10年前には誰も携帯端末でキャッシュレス精算なんてしてなかったし、これが10年後にどうなってるかわからない。この先こういう産業が強くなっていくかは誰もわからないところがあります。そこで新技術を事業にするのは当然リスクがあります。われわれとしては、そのリスクをどれだけ下げられるかという仕事を行政としてはやらなければならない。そのあたりは民間の団体にも応援してもらわないとですね。

**井上** 一方で、そうしたものと経済圏とし

JR横浜線橋本駅北口から徒歩2分。ファストフードとは違う、本格的なグルメバーガーが食べられるダイニング。運営しているのは、相模原や町田を中心に飲食事業を展開する株式会社グロースバルド。カジュアルな空間で人気のハンバーガーをはじめ、ハンバーガーや熟成ハラミステーキなど、アメリカンなメニューが楽しめる。テイクアウトやデリバリーも行い、カスタマーニーズにもきめ細かく対応している。

自慢のハンバーガーは全14種類。国産の新鮮野菜と共にパンズに挟まれたハンバーガーは、黒毛和牛と国産牛をブレンドし、卵もつなぎも一切使わない「とろけるハンバーガー」。今や相模原名物として認知され、最近ではホリエモンこと堀江貴文氏が出資する宇宙ベンチャー、インターステラテクノロジズが開発した小型ロケットで、宇宙へ飛び立ったことでも話題だ。

「JAXA相模原キャンパスがある相模原市は、北海道の大樹町と姉妹都市なんです。その大樹町から宇宙に飛び立つロケットに相模原のハンバーガーを載せたら、『宇宙の街・相模原』をア

での活性化と一緒に噛ませる。地べたが必要施設とか事業と、今おっしゃったような中でのものを組み合わせていく必要があるでしょう。前者の部分ではモノレールを始め、鉄道網の整備をすることや中心市街地の整備を進める。つまり再開発しかないと思いますね。ちよと大きな絵かもしれない。

**石阪** でも、何十年とかかるのですが、そこは本当に大事なことですね。

**井上** そうですね。1本1本の木を植え込む仕事はキリがないほどあるわけですが、それよりまずどんな山を創りたいのかを考えて、山創りをしませんとね。例えば、立川や海老名や新百合ヶ丘という山に対して町田、相模原はどんな山なのか。ハード・ソフト両面から一つ一つ苗木をみなさんが持つてきて、ああ、住みやすい街だなあと。そういう段階を踏んでですね。

難しいかもしれませんが、私も経済同友会としては、そうした課題に行政の皆さんと一緒に、一体になつてやるというのが考え方です。未来を共に語り、行動する関係を作ればと思います。

**石阪** そうですね。もう少し機会を設けて、目先のことであればまずいので、将来、5年とか10年先の産業や事業の在り方を、そのあたりのイメージを一緒に作っていかないとならないですね。市の経済担当の職員だけじゃなくて、福祉や介護とか、そういう職員も入れて語り合える場をぜひ作っていききたいと思います。

ビールできるのでは、と思ったんです」そう語る吉田茂司オーナーは去る5月に発射したMOMO3号に続き、7月下旬のMOMO4号発射の際も現地に駆け付けた。MOMO4号には大樹町産のチーズを使ったハンバーガーを搭載したのだ。

一方、JAXA相模原キャンパスからほど近い相模原南病院の理事長としても多忙な日々を送る傍ら、歯科医としても現場に立つ石川誠剛氏。グリルフクヨシでは低カロリー高タンパクの熟成ハラミステーキもお気に入りだという。

「JAXAのはやぶさ2も、フクヨシさんのハンバーガーも、相模原を盛り上げてくれて、本当に嬉しいですね」

ハンバーガー、そしてハンバーガー。宇宙の街・相模原を全国に広めようとした吉田オーナーの相模原愛は宇宙よりもずっと大きいものかもしれない。



上) ゴルフの腕前はプロ級という石川氏。食生活も健康志向だ中) ベビーカーで来店しても安心の店内 下) ロケット発射に駆け付けたオーナーの吉田氏(右から2人目)



第103回 例 会 2019 2/14 (木) ホテル ラポール千寿閣

## 「町田市議会議員の方々と意見交換会」

市議会から小田急多摩線の延伸や多摩都市モノレール、町田市と相模原市の連携について説明があり、同友会からは株式会社三和の小山氏、株式会社きらぼし銀行の田原氏が現場のリアルな意見を述べられました。



第105回 例 会 2019 4/18 (木) ホテル ラポール千寿閣

## 「なぜ、かまぼこ屋がエネルギーのことを考えたのか？」 鈴廣かまぼこグループ 代表取締役副社長 鈴木 悌介氏

小田原の美しい自然環境を未来へ繋げるために老舗が挑んだエネルギー改革。ゼロ・エネルギーを目指した本社屋や新電力導入など、再生可能エネルギーの地産地消が必要であることを熱く語られました。



## 武相エコノミスト

### 第12号

2019年8月1日発行

発行 町田・相模原経済同友会

〒194-0022 東京都町田市森野1-25-19 パレス熊沢part1-2F  
TEL/FAX 042-726-3577

制作 株式会社VisionDesign

町田・相模原経済同友会入会のお申込み・お問合せは  
TEL 042-726-3577  
http://www.ms-doyukai.jp/

※本紙掲載の写真、記事、ロゴの無断転載、および複写を禁じます

第104回 例 会 2019 3/14 (木) ホテル ラポール千寿閣

## 「企業を元気にする睡眠法」 株式会社大和屋ふとん「まくらぼ」齊藤 浄一氏

オーダーメイド枕を提供し、全国各地で企業やアスリートにセミナーを行う睡眠のプロによる講話。しっかりとしたエビデンスに基づいた内容で、様々な観点から睡眠を分析、説明。アプリの活用等も紹介されました。



2019年度 総 会 2019 5/23 (木) ホテル ラポール千寿閣

## 第13回 町田・相模原経済同友会 総会

前年度の事業及び収入支出報告や、新年度の事業計画・予算可決承認が滞りなく行われました。また各委員の選任後、任期を終えた祇園氏、新代表就任の井上氏が挨拶し、2019年度のスタートが切られました。



第106回 例 会 2019 6/20 (木) ホテル ラポール千寿閣

## 「本会設立の経緯・取り組み等について」 町田・デザイン専門学校 理事長・校長 井上 博行氏

新年度最初の例会は新代表幹事が経済同友会の成り立ちから当会設立の経緯、町田と相模原の関係性を歴史的側面から説明。町田・相模原経済圏の大きな可能性と、町田駅前の再開発案も紹介されました。



JAXA相模原キャンパス 神奈川県相模原市中央区由野台3-1-1  
宇宙科学探査交流棟 10:00~17:30 (入館は17:15まで。月曜休館 ※月曜が国民の祝日の場合、翌平日が休館)  
7月11日、第2回タッチダウン成功を喜ぶプロジェクト関係者



「相模原キャンパス」は宇宙航空研究開発機構(JAXA)の研究拠点の一つ。「はやぶさ2」以外にも、太陽系探査ミッションや天文観測衛星の開発など、宇宙の謎を解明するためのさまざまな研究が進められている。

採取された物質には太陽系誕生時、46億年前の痕跡があるとされる。それが持ち帰られれば、太陽系誕生の謎に大きく近づく。その瞬間を見守ったのは100人以上のスタッフや関係者。プロジェクトマネージャの津田雄一氏は地元、相模原市の出身だ。

今年7月11日午前10時20分、相模原市のJAXA相模原キャンパスにある、管制室は大きな歓声に包まれた。探査機「はやぶさ2」が小惑星リュウグウへピンポイントで2度目の着陸。小惑星の地下から噴出させた物質を採取するミッションに成功した瞬間だ。

「はやぶさ2」着陸成功！  
太陽系誕生の謎解明に挑む  
探査機「はやぶさ2」着陸成功のニュース。小惑星の地下物質採取に成功すれば世界初となる快挙だ。そこには、46億年前、太陽系誕生の謎を解く鍵が含まれているという。未知なる宇宙の謎に挑み続ける、それがJAXA相模原キャンパスだ。



上)「はやぶさ2」が探査を行っている小惑星リュウグウの模型も  
下)宇宙科学のあゆみがわかる資料や、実物大のロケットの先端部なども展示されている



まだ見ぬ風景に、出会う旅。

旅行が、忘れ得ぬ記憶となるために――。

私たちは、お客様に旅行を仲介する単なる代理店から  
企画力・提案力を駆使して、お客様のニーズを第一に考えた  
付加価値の高い旅を創造する旅行社でありたいと考えています。

団体旅行・バス旅行・個人旅行・家族旅行、国内・海外旅行のことならなんでもお気軽にご相談ください

<http://www.towntours.co.jp/>

 **株式会社 タウンツアーズ**  
東京都知事登録旅行業 第2-5952号

【本 社】☎042-727-2977

〒194-0021 東京都町田市市中町 2-6-11

【八王子支店】☎042-620-5515

〒192-0904 東京都八王子市子安町 3-8-10

